日本コンセプト株式会社

決算説明資料

2019年2月18日



東証1部
9386

目次

Ⅰ 2018/12期決算 & 2019/12期決算見通し

Ⅱ 当社ビジネスについて

Ⅲ 2019 ~ 2021年中期経営計画

Ⅳ APPENDIX

I

2018/12期決算
&
2019/12期決算見通し

NICHICON
NIPPON CONCEPT CORPORATION

2018/12期決算ハイライト　①損益の状況

■ 2018/12期業績は、前期比増収増益　**売上高は、過去最高更新**

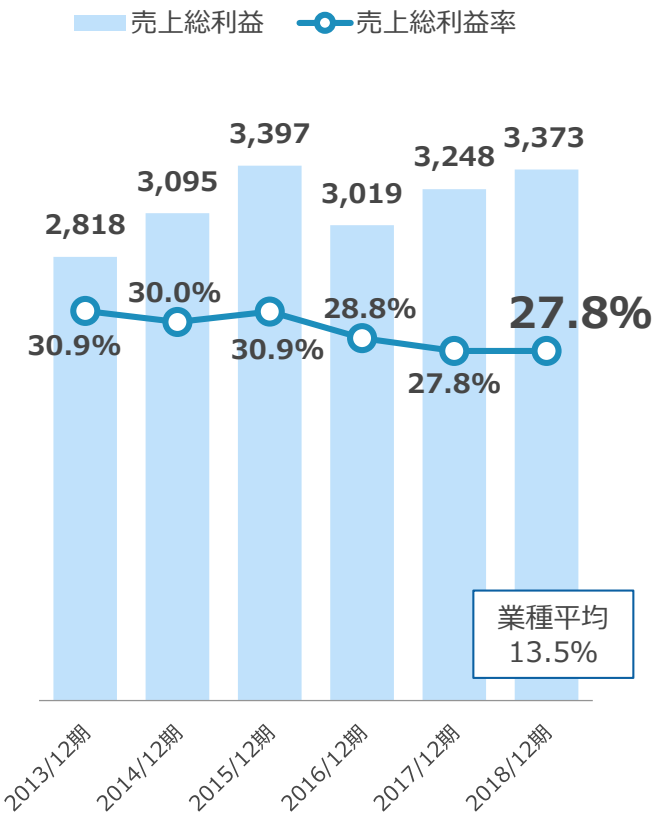
（百万円）	2017/12期	2018/12期		前期比	増加率	直近予想との差異
		直近予想	実績			
売上高	11,705	12,285	**12,165**	**+460**	**3.9%**	**△120**
営業利益	1,865	1,935	**1,939**	**+73**	**3.9%**	**+4**
（率）	(15.9%)	(15.8%)	(15.9%)			
経常利益	1,772	1,878	**1,914**	**+142**	**8.0%**	**+36**
（率）	(15.1%)	(15.3%)	(15.7%)			
親会社株主に帰属する当期純利益	1,245	1,299	**1,346**	**+101**	**8.2%**	**+47**
（率）	(10.6%)	(10.6%)	(11.0%)			

決算ハイライト　②各種利益・利益率の状況

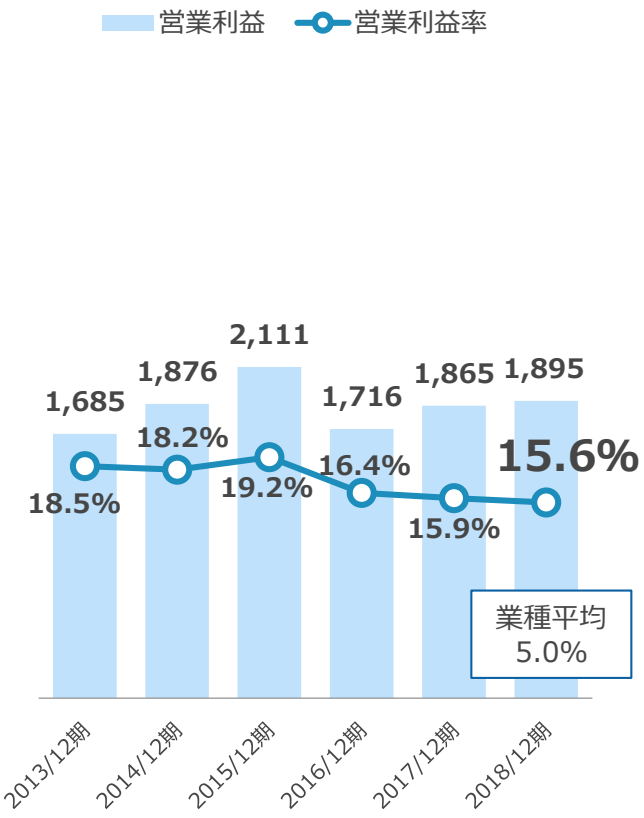
■ 各利益率は引き続き、*業種平均を大きく上回る水準をキープ

*業種平均：東証業種分類の倉庫・運輸関連業24社の平均

売上総利益・同利益率



営業利益・同利益率



経常利益・同利益率



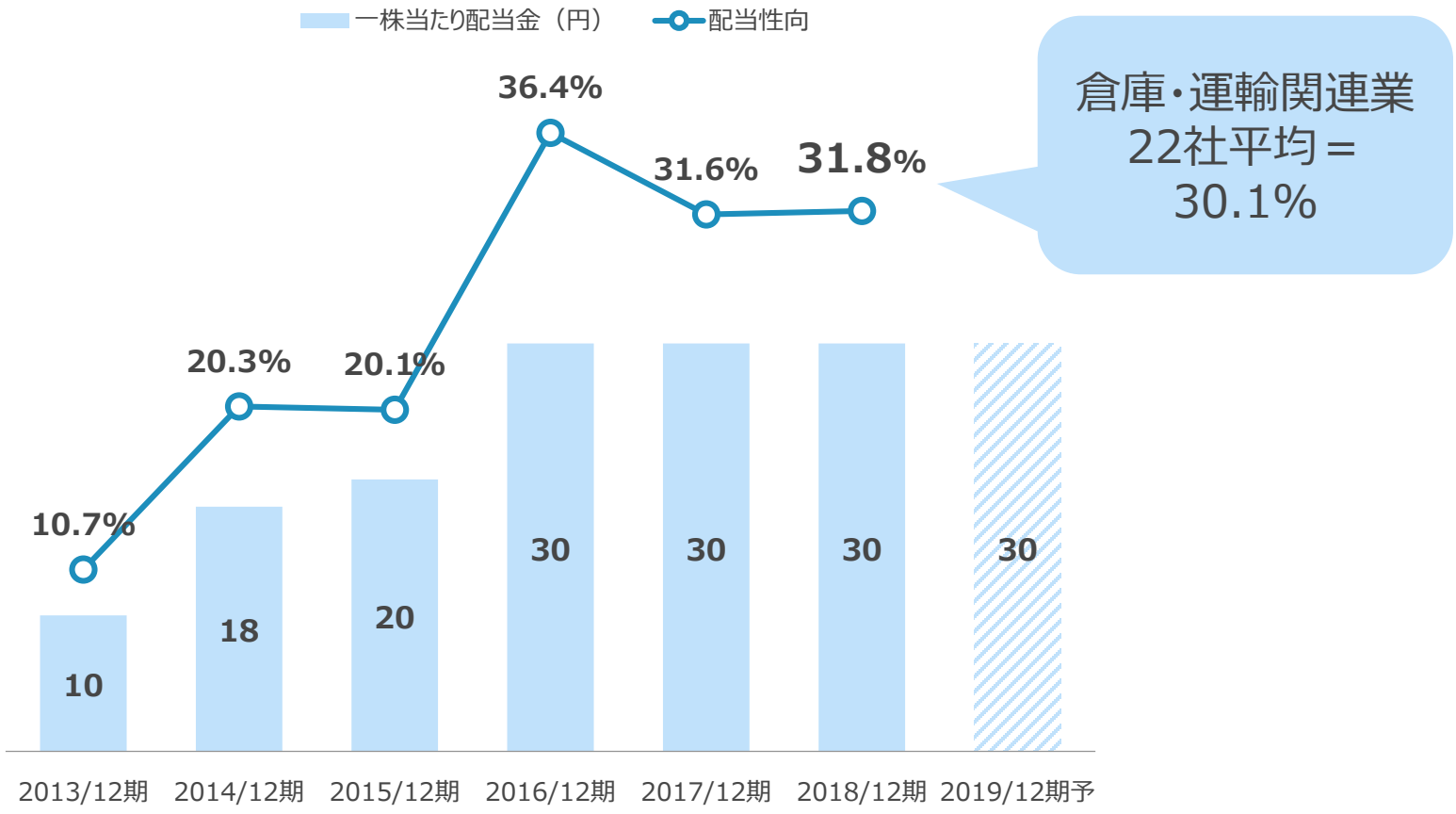
2019/12期決算見通し

■ ガスタンクコンテナ事業の本格化、タンクコンテナ保有基数の増強などにより、引き続き増収増益を見込む

（百万円）	2017/12期	2018/12期	2019/12期 見通し	前期比	増加率
売上高	11,705	12,165	**12,710**	**+545**	**+4.5%**
営業利益	1,865	1,939	**1,985**	**+46**	**+2.4%**
経常利益	1,772	1,914	**1,950**	**+36**	**+1.9%**
親会社株主に帰属する当期純利益	1,245	1,346	**1,349**	**+3**	**+0.2%**

株主還元方針

- 配当性向は30%台をキープし、業界平均水準並み
- 一株当たり配当金については、2019/12期は30円に据え置きの方針



Ⅱ

当社ビジネスについて

日本コンセプトは、
化学品・食品及び高圧ガスを
環境に優しいモーダルシフトで国際複合一貫輸送する
“環境モーダル企業”です。

NICHICON
NIPPON CONCEPT CORPORATION

地球環境の観点から世界的に推進される モーダルシフトに適合するタンクコンテナ

- ※ISOの定めた規格に基づく高い強度と耐久性を備え、危険物を一般の貨物と同様に海陸一貫輸送
- 長期間の反復利用が可能なうえ、追加の包装材も一切使用しないため、輸送にともなう廃棄物も最小限に
- 洗浄作業も、残液の厳格な処理を行うことができる信頼性の高い施設で実施
- こうしたタンクコンテナの経済性、利便性、安全性、環境性能から、欧米やアジアをはじめ全世界で普及が進んでいる

※ISO：International Organization for Standardization(国際標準化機構)の略

タンクの反復利用が可能



移動・保管が簡単でエコ

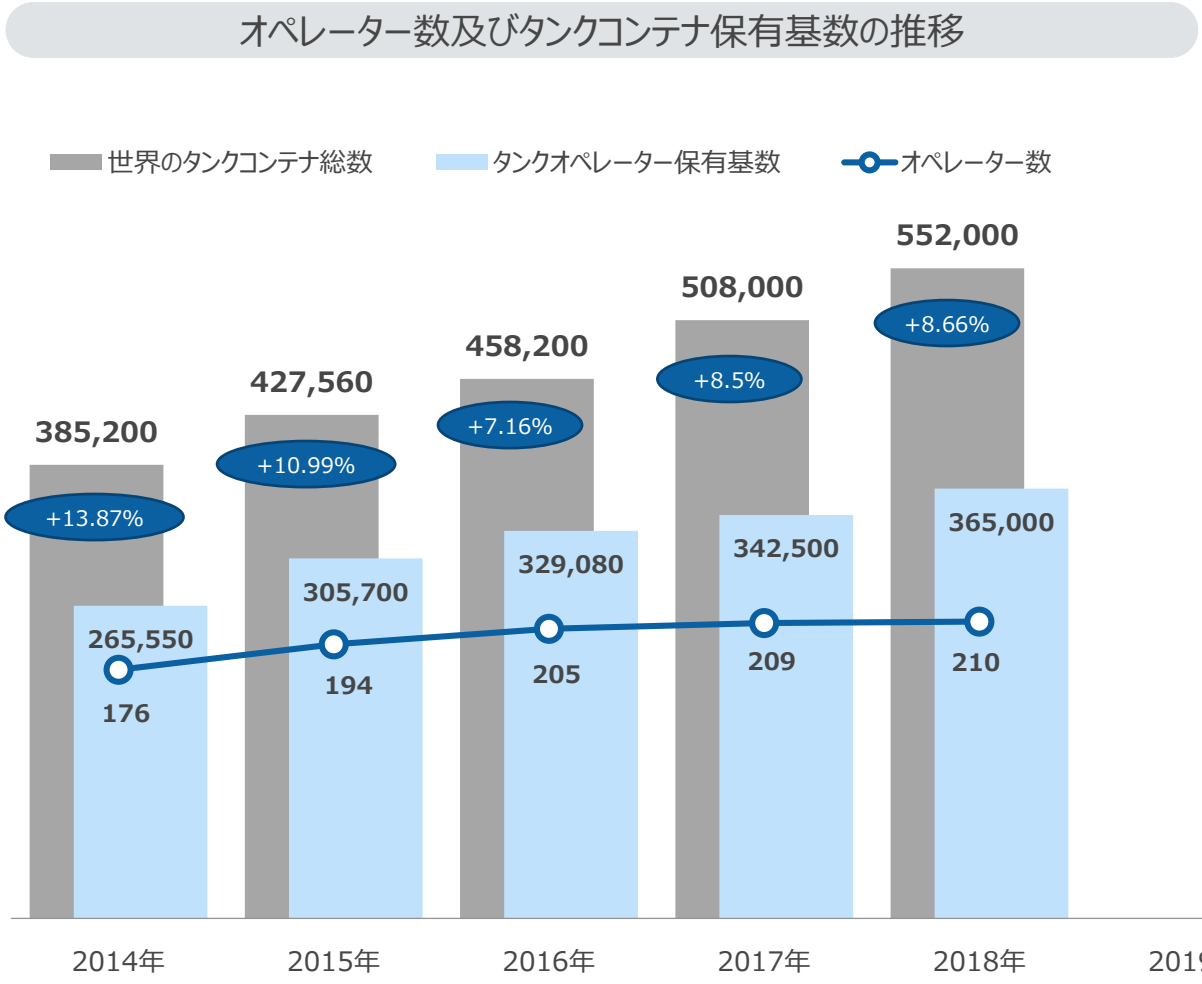




NICHICON NIPPON CONCEPT CORPORATION

事業環境　①タンクコンテナ、オペレーター数の推移

■ 世界のタンクコンテナ総数は、2014年以降約4割増、オペレーター数は約2割増



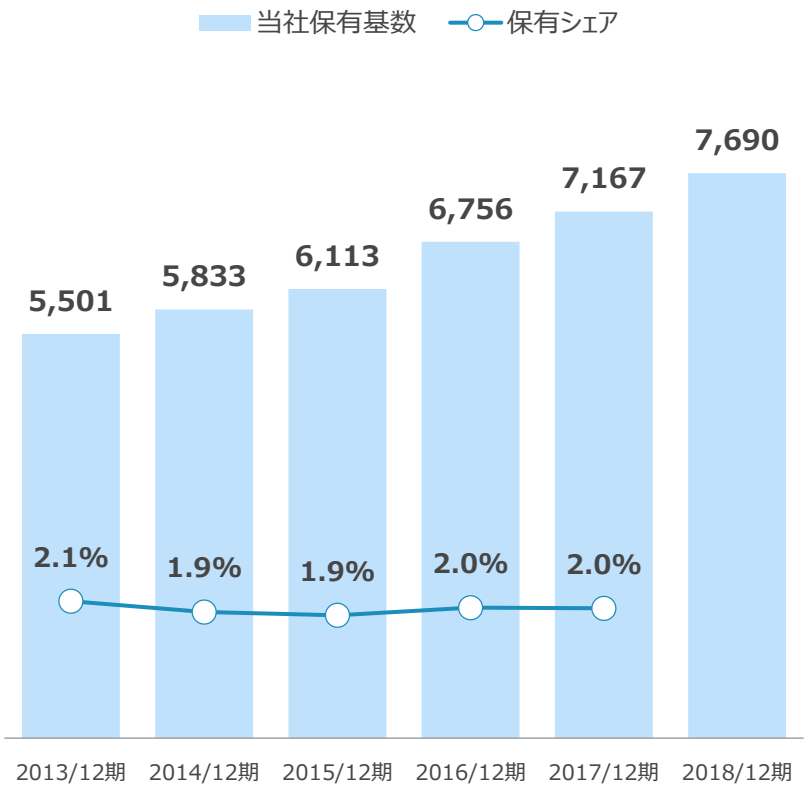
(*)各年1月1日

(出所)ITCO Global Tank Container Fleet Survey 2018

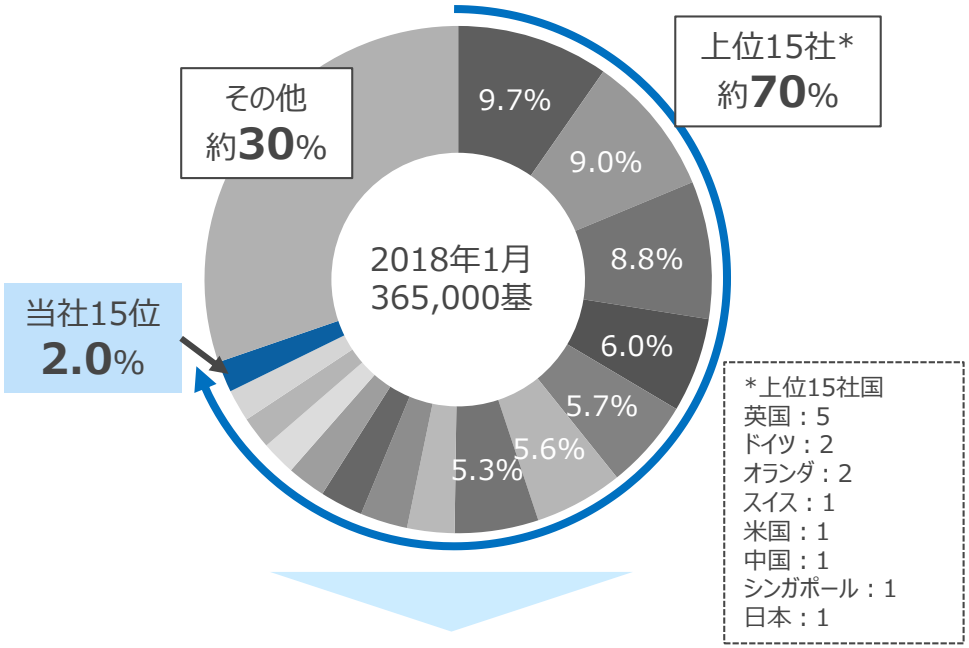
事業環境　②当社のポジション

■ 世界のタンクコンテナ保有シェアは上位15社で約70%を占めるが、2ケタ以上のシェアを占める企業も存在しない。　当社はシェア2%で世界第15位

当社タンクコンテナ保有基数とシェア推移



世界のタンクコンテナ保有シェア



上位15社で約70%を占める一方、
圧倒的な高シェア企業はない

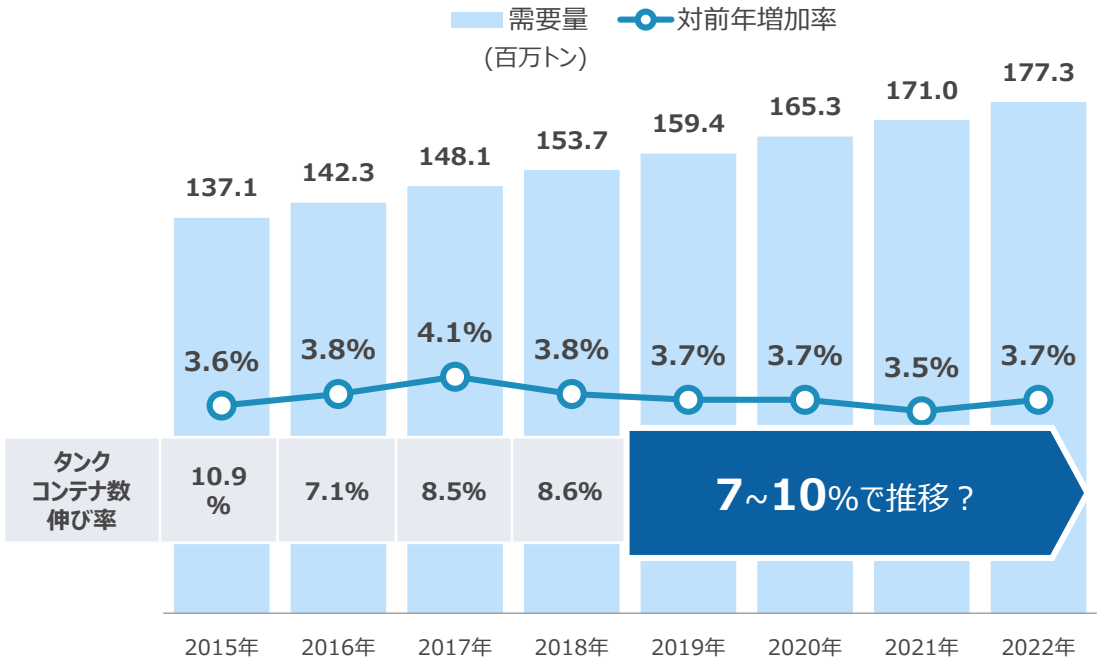
(出所)ITCO Global Tank Container Fleet Survey 2018

事業環境　③タンクコンテナ需給見通し

■ 世界の*エチレン系誘導品の需要見通しは、2022年に向けて3%台後半の安定的な伸びが見込まれており、これまでの世界のタンクコンテナ総数の伸びを踏まえると、タンクコンテナ需要は引き続き順調な伸びが期待される

*エチレン系誘導品
ナフサを分解して得られるエチレンから生成される各種化学材料。高い強度と耐久性を備えた容器で厳重に管理しながら世界中に運ぶ必要があり、海陸一貫輸送できるタンクコンテナの主要な輸送貨物となる。

世界のエチレン系誘導品の需要見通しとタンクコンテナ数伸び率



(百万トン)	2016年⇒2022年			伸び率
世界	142.3	177.3	35.0	**3.7%**
アジア	67.1	90.3	23.2	**5.1%**
欧州	22.0	23.1	1.1	**0.8%**
北中南米	34.6	40.0	5.5	**2.5%**
中東	9.4	12.1	2.7	**4.3%**

(出所)「世界の石油化学製品の今後の需給動向」(2018年10月経済産業省製造産業局素材産業課)

特徴と強み　③高い収益性　～グローバル・トップ企業との比較

■ 高いコスト競争力を背景に、高い収益性を実現し、世界トップのタンクコンテナオペレーターである Stolt Tank Containers(以下STC)を遥かに上回る高効率経営を達成

規模比較

売上高(百万米ドル)

当社	STC	当社比
110.1	551.1	**5.0**倍

営業利益(百万米ドル)

当社	STC	当社比
17.6	70.9	**4.0**倍

保有タンクコンテナ基数

当社	STC	当社比
7,429	37,299	**5.0**倍

(注) 当社は平均レート¥110.44で単純計算
タンクコンテナ基数は(期初+期末)/2で計算

規模は5分の1程度だが、
収益性は遥かに上回る

収益率比較

売上総利益率

当社	STC
28.0%	24.7%

営業利益率

当社	STC
15.9%	12.9%

タンクコンテナ当たり営業利益

当社 (千米ドル)	STC
2.36	1.90

特徴と強み　④高い参入障壁

- ここ4年間における世界上位への**新規参入はゼロ**（3位以下の順位変動はあり）
- なお、トップ2社については、順位こそ維持しているが、シェア自体は低下する一方、上位15社への集中度は57.2%から69.7%へ10%ポイント以上上昇。 より集中度は高まっている

2014年1月シェア上位16社

社名	本社	保有基数	シェア
Stolt Tank Containers	英国	32,100	12.1%
Hoyer Group	ドイツ	27,350	10.3%
Bulkhaul	英国	18,400	6.9%
Bertschi Group	スイス	11,800	4.4%
China Railway Logistics	中国	9,000	3.4%
VTG Tanktainer	ドイツ	7,450	2.8%
Sinochem	中国	6,200	2.3%
Den Hartogh Logistics	オランダ	6,150	2.3%
Suttons International	英国	6,000	2.3%
当社	日本	5,500	2.1%
Intermodal Tank Transport	米国	5,000	1.9%
Eagletainer Logistics	シンガポール	4,700	1.8%
Newport	オランダ	4,200	1.6%
M&S Logistics	英国	3,500	1.3%
Dana Liquid Bulk	米国	2,500	0.9%
Interflow(TCS)	英国	2,000	0.8%
合計シェア			57.2%

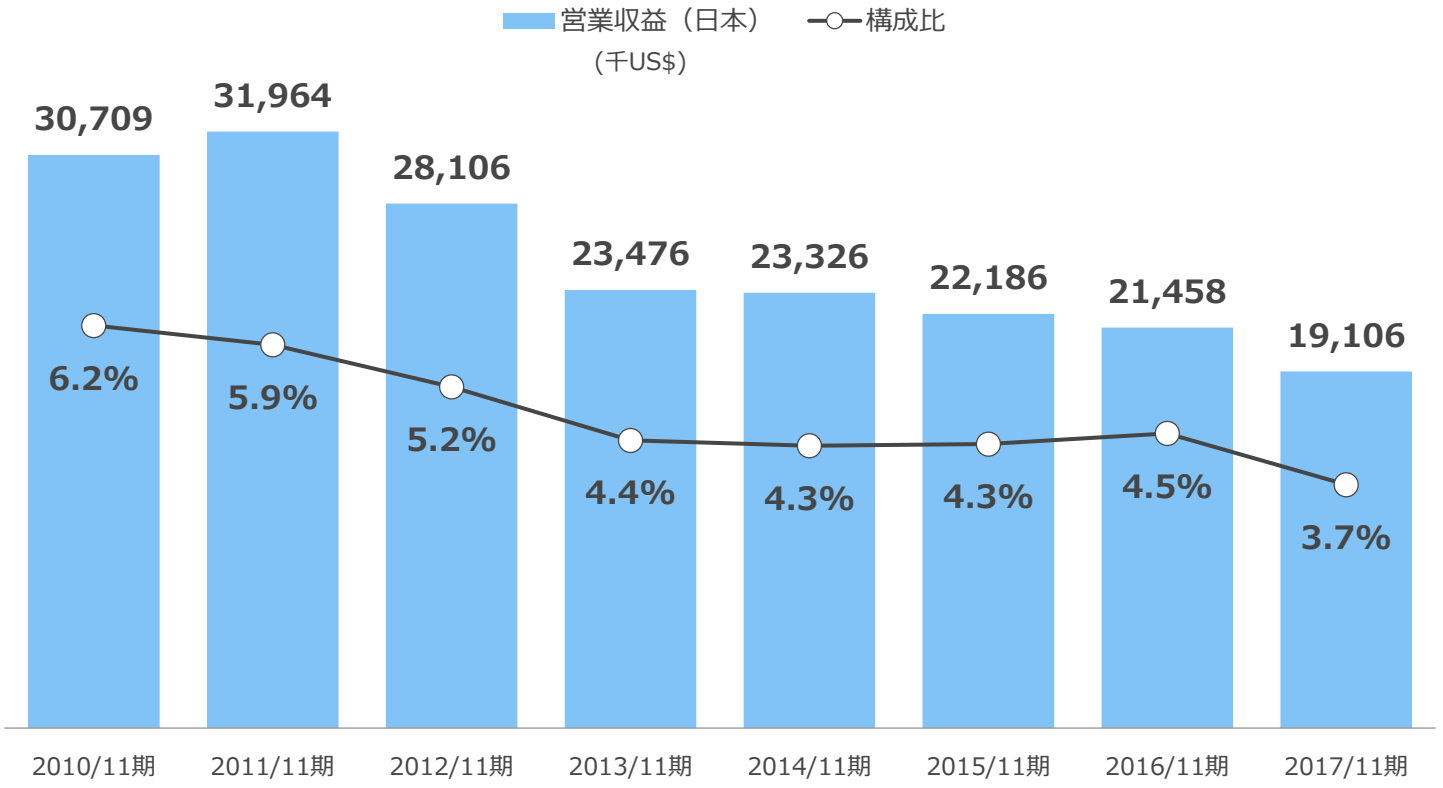
2018年1月シェア上位15社

社名	本社	保有基数	シェア
Stolt Tank Containers	英国	35,395	9.7%
Hoyer Group	ドイツ	32,958	9.0%
Newport/Sinochem	オランダ	32,000	8.8%
Bulkhaul	英国	22,000	6.0%
China Railway Logistics	中国	20,879	5.7%
Bertschi Group	スイス	20,600	5.6%
Den Hartogh Logistics	オランダ	19,500	5.3%
Intermodal Tank Transport	米国	11,000	3.0%
Interflow(TCS)	英国	11,000	3.0%
Dana Liquid Bulk	米国	10,000	2.7%
VTG Tanktainer	ドイツ	9,000	2.5%
M&S Logistics	英国	7,993	2.2%
Suttons International	英国	7,500	2.1%
Eagletainer Logistics	シンガポール	7,450	2.0%
当社	日本	7,166	2.0%
合計シェア			69.7%

(出所)ITCO

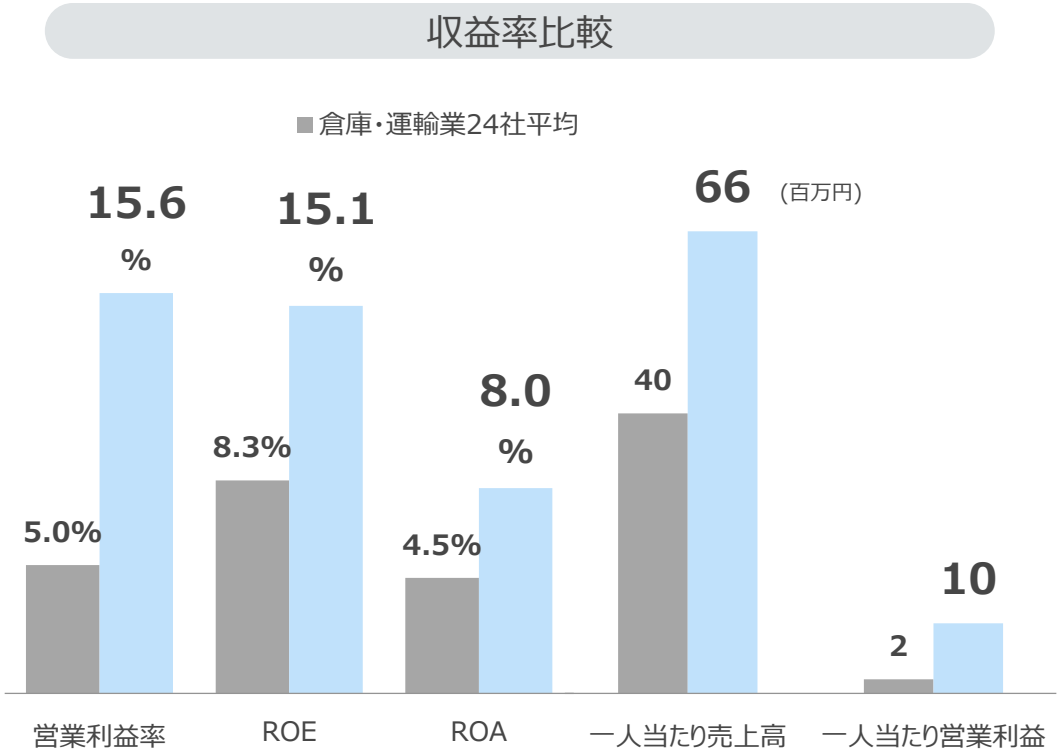
特徴と強み　④高い参入障壁　STC社の日本での業績推移

■ タンクコンテナ業界トップ企業のSTC社の日本における営業収益は年々低下、全体に占めるその構成比も大幅低下



特徴と強み（ご参考）日本の運輸・倉庫業界との比較

- 運輸・倉庫業界との比較では圧倒的な効率性・収益性を示す
- 「タンクコンテナ」が単なる物流サービスではない高付加価値を生み出している



Ⅲ

2019 ~ 2021年
中期経営計画

NICHICON
NIPPON CONCEPT CORPORATION

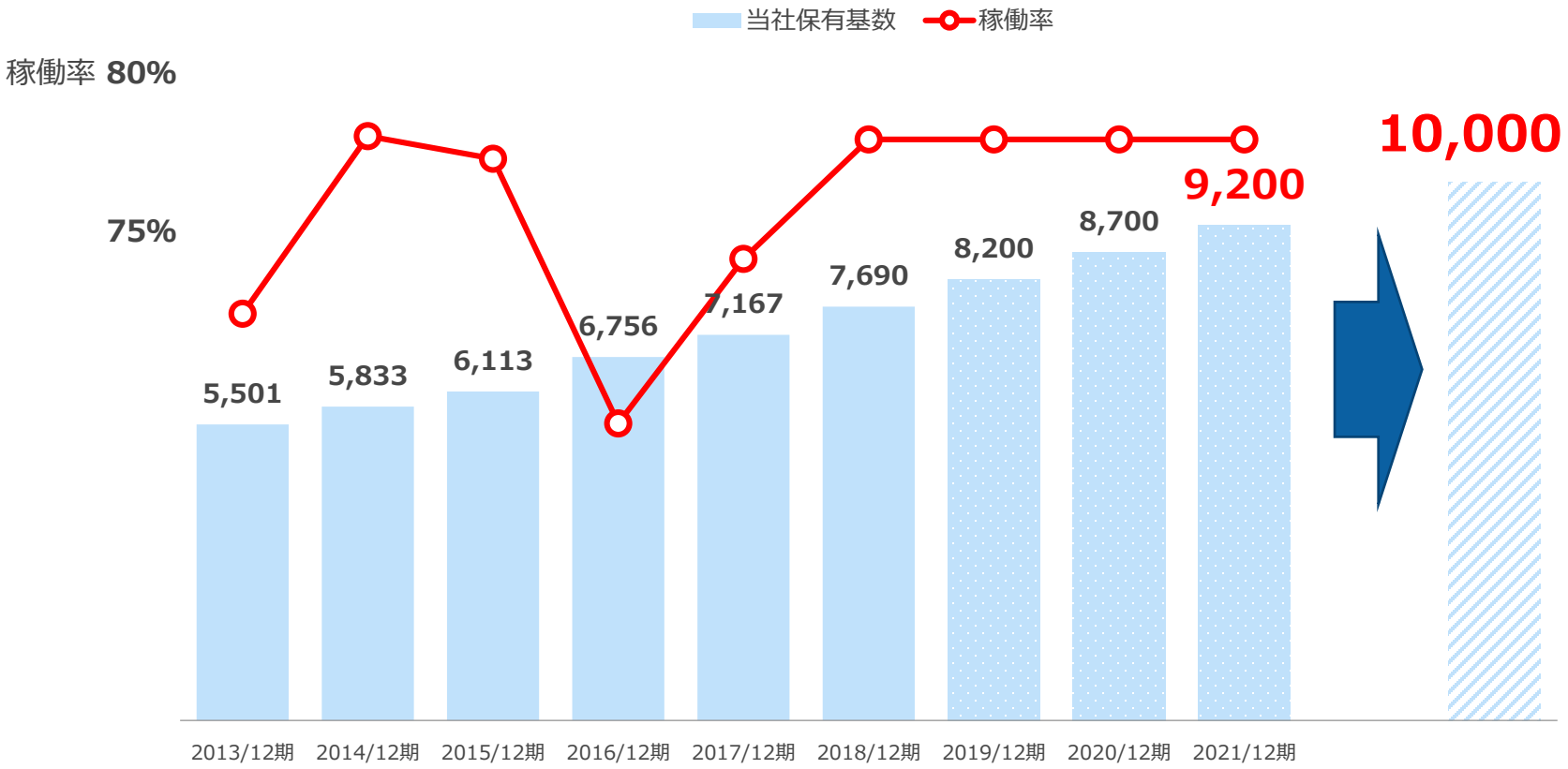
中期経営計画　基本方針

地球環境を守るタンクコンテナを活かしつつ
安定した成長を通じて経営基盤を一段と強化する

1. **環境に適した**繰り返し使用可能なタンクコンテナを利用し、日本の物流革命を一段と推進する
2. **環境に適した**タンクコンテナを活かすために構築したネットワークを活用し、ビジネスの更なる取り込みを図る
3. 当社独自のビジネスモデルを広く展開し、ガスコンテナビジネスを着実に拡大する
4. 資本業務提携を結ぶ㈱商船三井との協業体制を一段と強化し、新たなフロンティアを開拓する

中期経営計画　企業戦略（1）ケミカル関連ビジネスの拡充

- 競争力強化に向けて保有基数の増大を図りつつ、稼働率も70%台後半を維持
- 効率的な輸送を展開しつつ、輸送量の増加に見合った着実な増量を目指す



<新規調達計画>	2019/12期	2020/12期	2021/12期
調達基数(概算)	500	500	500

中期経営計画　企業戦略（2）国内ビジネスの拡大

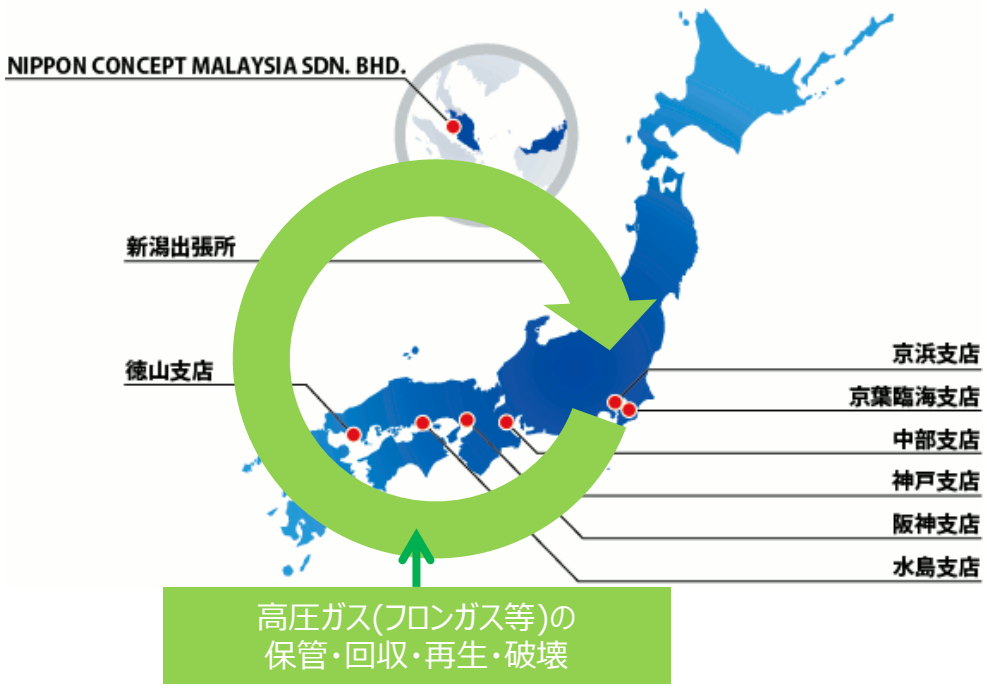
■ 国内主要工業地帯を始めとして、全国各地に物流サービスを提供



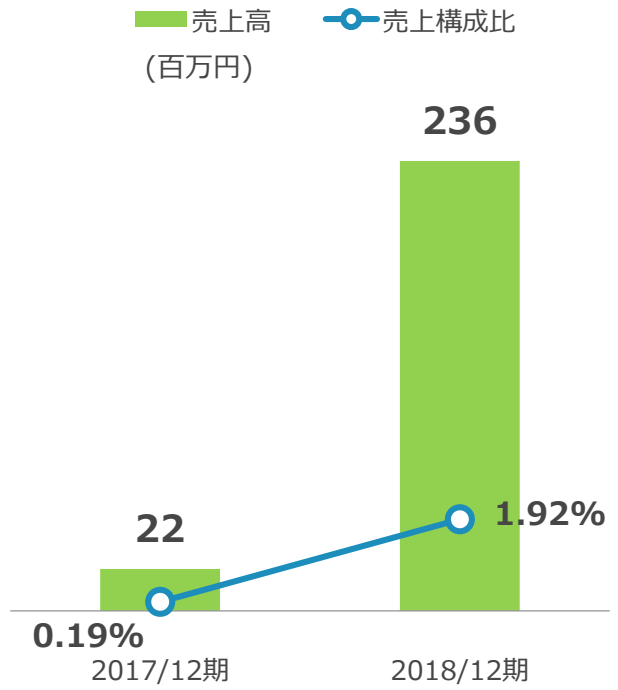
中期経営計画　企業戦略（3）ガスタンクコンテナ事業の推進

- 京葉臨海支店において、ガスタンクコンテナを利用した高圧ガス(フロンガス等)保管・回収・再生・破壊を一貫して提供する新規事業を開始。 今期売上は2.36億円に(前期比10倍増)
- 全体に占める売上比率はまだ2%弱と小さいが、粗利は高く、第2の収益の柱となる見込み
- **地球環境を守るビジネス**として、環境破壊の確実な防止を図る

ガスタンクコンテナ事業



ガスタンクコンテナ事業　売上実績



中期経営計画　企業戦略（4）商船三井との協業体制の更なる強化

- 2018年2月13日、㈱商船三井との資本業務提携を締結。商船三井グループの欧米・中東ネットワークを活用し、同地域への営業強化を図る
- また、様々な輸送手段を必要とする顧客に対し、タンクコンテナとタンカーによる輸送サービスを同時に提供することで差別化を図る

NICHICON NIPPON CONCEPT CORPORATION

当社の強み

- タンクコンテナによる専門性高い輸送サービス

×

MOL 商船三井

商船三井の強み

- タンカー等の船舶輸送サービス
- 欧米・中東の海外ネットワーク

✓欧米・中東地域への営業強化
✓タンクコンテナとタンカーによる輸送サービスを同時提供

中期経営計画　定量目標

	2018/12期	計画最終年度 2021/12期
売上高	121.6億円	**141.5**億円
営業利益	19.3億円	**22.0**億円
経常利益	19.1億円	**21.7**億円
一株当たり当期純利益	98.0円	**108.45**円

Ⅳ

APPENDIX

NICHICON
NIPPON CONCEPT CORPORATION

沿革

年月	内容
1994年 1月	東京都中央区に日本コンセプト株式会社設立
1996年 7月	東京都江東区に東京支店、兵庫県神戸市に神戸支店開設
1998年 6月	新潟県新潟市に新潟支店（現出張所）開設
11月	山口県下松市に徳山支店開設
12月	ヨーロッパにおける営業拠点としてロッテルダム（オランダ）に100%出資子会社 NICHICON EUROPE B.V.社設立
2001年 3月	東南アジアにおける営業拠点としてシンガポールに100%出資子会社 NIPPON CONCEPT SINGAPORE PTE. LTD.社設立
2002年 6月	イギリスにおける営業拠点としてロンドンにNICHICON EUROPE B.V.社を親会社とするNICHICON UK LIMITED社設立
9月	NICHICON EUROPE B.V.社、NICHICON UK LIMITED社の持株会社としてEURO CONCEPT B.V.社設立、両社を子会社化
12月	マレーシアにおけるISOタンクコンテナ供給拠点として、NIPPON CONCEPT SINGAPORE PTE. LTD社を親会社とする NIPPON CONCEPT MALAYSIA SDN. BHD社設立
2005年 9月	施設拡張の為、東京支店を廃止、神奈川県川崎市に京浜支店開設
2010年 3月	大阪市中央区に大阪営業所を開設
2011年 8月	東京都千代田区に本社を移転
2012年 2月	アメリカにおける営業拠点として、テキサス州ヒューストンに100%出資子会社NIPPON CONCEPT AMERICA, LLC.社を設立
10月	大阪証券取引所 JASDAQ(スタンダード)市場に株式上場
2013年 2月	三重県四日市市に中部支店及び中部営業所開設
2015年 8月	岡山県倉敷市に水島支店及び水島営業所開設
2016年 2月	神戸支店に併設する形で神戸営業所を開設、大阪営業所との機能を統合
9月	東京証券取引所市場第二部（東証二部）へ市場変更
2017年 2月	千葉県富津市に京葉臨海支店開設
7月	東京証券取引所市場第一部（東証一部）へ指定
2018年 1月	兵庫県神戸市に阪神支店及び阪神営業所開設
2月	株式会社商船三井と資本業務提携契約を締結

会社概要

社名	日本コンセプト株式会社
設立	1994年1月6日
所在地	東京都千代田区内幸町2-2-2 富国生命ビル8階
代表取締役社長	松元　孝義
資本金	1,134,7871,750円（2018年12月末時点）
上場市場	東京証券取引所市場第一部
単元株式数	100（株）
決算期	12月
子会社	6社
従業員数	184名（連結：2018年12月末時点）



見通しに関する注意事項

**当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、
将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。**

＜お問い合わせ先＞
経営企画部　IR担当
03-3507-8812
inquiry@n-concept.co.jp